



愛隣幼稚園

園だより

.....21.4月
シンプルに考えて

“おめでとう！の春”がやってきました。4月に幼稚園の1年を始められることを本当に嬉しく感じます。ばら組、もり組のご家庭の皆さんには強く共感いただけるのではないかと思います。また、新入の皆さんにとっても昨年はきっと得体の知れない閉塞感の中で春を過ごされていたことでしょうか。少なからず“おめでとう！の春”に共感いただけるのではないかと考えています。在園の子どもたちは1つずつ大きくなりました。始業の日、登園してきた子どもたちのどこか誇らしげな表情を見て「もり組のみんな、おめでとう！よろしく頼むよ。」と心の中で声をかけました。「たんぼぼくみがきたら、あそびにいつてあげる～」と張り切る姿に、～今、ここから出会い、1年を共に歩いていける～そのことに改めて感謝し、春を大事に過ごしていきたいと思います。

さて、昨年は新型コロナウイルスという未知のウィルスに世界中が翻弄されました。ソーシャルディスタンスが叫ばれ、人との距離を取ることが優先され、直接会って交流する機会は極端に制限されました。自由に旅行に行かなくなったり、外食も飲み会も制限されたり、離れた家族に会うことすらできなくなりました。幼稚園の中では当たり前にしてきた様々な行事を見直さなければならず、園内に入る大人の数も減らさなければなりません。楽しいこと、うきうきすること、非日常を味わう興奮、そんなものがなくなってしまいました。しかし、よくよく振り返ってみると、それでよかったこともある、と私たちは気付いています。ずっと走り続けていたようです。仕事で、イベントで予定が埋まっていると、生活が充実しているような気がしていたのです。でも、それが無くなって、ちょっとのんびりしました。走り続けている時には気付かなかったこと、見えなかった景色が見えて、大事なことを思い出したりもしました。幼稚園も同じです。出来ないことに直面して、どうしたらいいかと考えた時に、はっきり見えてきたことは「子どもたちの園生活を大切にすること」でした。具体的には、子どもたち一人ひとりがそれぞれの力を発揮すること、違いを認め自分はいいい、君もいいいと思ひ尊重し合う仲間になること、その生活を通してひとり一人の成長と発達保障されること。さらには子どもたちがその生活に確かな手応えと満足を感じられるように。そして子どもたちを取り巻く大人たちは、子どもたちが安心して力を発揮できる今日を支える1人であり、仲間であること。出来ないことを整理していくと、大切なことだけがはっきり見えてきて、それは愛隣が変わらず大事にしてきたもので、案外シンプルなものでした。新しい1年が始まります。今年もきっと様々なことに迷い、多くのことを考えなければならいはず。そんな時は「大切なことはなにか？」と、まずはシンプルに考えていきたい、ご家庭の皆様とも、このことを共有し保育を進めていきたいと思ひます。

そして新しく幼稚園の仲間になるご家庭の皆さん、明日からをどんなふうと考えていらっしゃるでしょうか。「いよいよ、私の時間ができるぞ！少しのんびりしようかなあ。」「でも、うちの子は大丈夫？ちゃんとやっていけるのかなあ。」など、嬉しい気持ち、心配な気持ちが入り乱れていることと思ひます。小児科医としても著名な精神科医のウィニコット氏によると、～子育てにおいて大切なのは、**ほどよい関係、ほどほどの関係**～だそうです。子どもの気持ちは完璧にくみ取れないほうがいいというのです。先回りは禁物、子どもの要求も全て叶えてしまつては、「自分」という概念が育ちにくくなってしまうそうです。“我が子とのほどほどの関係”こんな事にも挑戦したい春の始まりです。